

interview

廣瀬

ひろせ

丈巳

たけみ

代表取締役社長



(前編に続く)

「オンリーワンの存在になる」という志を胸に、試行錯誤を重ねてきた廣瀬社長。しかし、事業を拡張する中で思いもよらないトラブルに見舞われ、破産の危機に陥ります。苦い経験から得た教訓、そして今、廣瀬社長が社員たちに伝えたいメッセージとは。

閑散期にはじめた事業についてお聞かせください。また、どのようなトラブルが起きたのでしょうか。

大学生のアルバイトスタッフを家庭教師として派遣したり、工場へ作業員を派遣したりと、内容を問わずさまざまな仕事を行っていました。業務自体のトラブルはほとんどなかったのですが、問題は、それらの管理に手が回らず、社員に任せき

りにしてしまっていたこと。気づかぬうちに赤字が膨れ上がり、事業開始から10年目には取り返しのつかない状況に。自己破産寸前まで追い込まれてしまいました。

その苦境をどのようにして脱したのでしょうか。起死回生のために実践したことがあれば教えてください。

知人の会社に相談して、社員たちを一時的に預かってもらい、1人でゼロからやり直しました。「自己破産した方が楽だぞ」とアドバイスしてくれる方もいましたが、不思議なことに、私には立て直す自信があったのです。「どう転んでも命までは取られない。やるしかない」と。その後はひたすら節約に徹し、3年がかりですべての借金を返済しました。



▲現場の様子

このとき身につけた金銭感覚は、今でも大切にしています。たとえば、都心部に事務所を構えれば人材確保は今より楽になりますが、その代わり多額の固定費がかかりますよね。メリットの裏にあるデメリットを冷静に見極めて、慎重かつ計画的に物事を進めていこうと考えるようになりました。

社員の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

日々それぞれの場所で力を尽くしてくれる皆さんに、この場をお借りして、改めてお礼を伝えさせていただきます。いつも本当にありがとうございます。

埼玉営業所の現場スタッフとはなかなか顔を合わせる機会がありませんが、私は何よりも「現場の声」を大切にしているので、埼玉営業所に足を運ぶ際は、予告しないで突然顔を出しています。それは、自分の目と耳でリアルな職場風景を見て、改善につなげたいと考えているから。「社長が来た」と聞いてあわてて整理整頓をしている方もいらっしゃるかもしれませんが、日頃から意識を高く持っていただければ幸いです（笑）

また、社員を支えるご家族にも深く感謝しています。2021年頃から社員とご家族に誕生日プレゼントをお送りしていますが、少しでもその思いが伝わっていれば嬉しく思います。私は社員の皆さんのお子さんのことは、自分の孫のように思っています！

最後に、会社の今後の展望をお聞かせください。

私たちが扱う「水」は、人々の生活を支える上で欠かせないライフラインの一つ。その意味で私たちの仕事には、非常に大きな社会的意義があると考えています。理想はずばり、「小さな巨人」。小柄でありながら大きな力を発揮する『ドカベン』の里中智のように、会社の規模は小さくとも、唯一無二の存在感を発揮できる会社になりたいと思っています。

私には子どもがいますが、会社を継いでもらおうという気持ちは正直ありません。無理強いされた仕事はしんどいだけ。意欲の高い人に任せるほうが、成果を出せると考えているからです。ただ、どのような仕事をするにしても、企業は「人」がいてこそ成り立つもの。社員の皆さんにとって働きやすい環境を作れるよう、社長として今後も努力を続けていきます。

企業理念にもあるように、常に改善を目指し、仕事を通して一人ひとりの人間性を高め、全社一丸となって明るい未来を切り拓いていきましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「小さな巨人」を目指し、確かな前進を続けるタケミ・コーポレーション。その先頭に立つ廣瀬社長の挑戦は、まだはじまったばかりです。



▲更なる発展を目指して

頭の中を のぞき見!



廣瀬社長の無限に広がるアイデアから、ほんの一部をご紹介します!タケミ・コーポレーション独自の、工夫をこらした様々な機械について話してもらいました。皆さんも斬新なアイデアがあれば、ぜひ社長に伝えてみては?

■^{かんそく}緩速ろ過池のカキトリ機

5~6人で2~3日かかっていた
手作業での掻き取り作業……

**カキトリ機を使えば2~3人で、
1日あれば完了できる!**

5~6年前から少しずつ開発を進めていた、カキトリ機が間もなく完成します。現在、掻き取り作業を行う方々の中では、夏場の過酷な暑さや作業者の高齢化が問題となっています。人材不足により他社での作業継続が難しくなったことで、当社が業務を引き継いだというケースもありました。それほど頻繁に行う作業ではありませんが、一定の需要はあると踏んでいます。

開発にあたっては数え切れないほど試作を重ね、機械のハード面だけでも5~6回は改良しています。「えらいものに顔つつこんでもうたな」と思いましたが(笑)、オンリーワンを目指してチャレンジを続けています。

■電気式の高圧洗浄機

**電気式でも現場で使いやすい!
エンジン式を改造して実現**

現場で使える電気式の高圧洗浄機が欲しく、自社でアレンジを加えた経験があります。通常、現場で使用できるような電気式の高圧洗浄機は大型で重量も重いため、現場での使い勝手が良くありません。そこで、エンジン式の機械を分解してエンジンを抜き取ってモーターを積み、電気で動くように改造しました。

■バルーンタイヤの手押し車

**砂に沈むタイヤを
ちょっとしたアイデアで解決!**

通常の手押し車は一輪で、砂浜を走らせるとタイヤが埋まってしまうため、掻き取り作業の際は砂の上に板を敷いて通路を作っていました。それが非効率だと感じ、タイヤをバルーンタイヤに交換したのです。バルーンタイヤとは空気を入れて使う軽量のタイヤで、砂に沈みにくい特長があります。趣味の釣りでボートを運搬する際に使われているのを見てひらめきました。実用新案にも登録したため、タケミ・コーポレーションが使用の権利を持っています!

どうやってアイデアが思いつく?

不便さを見逃さず改善につなげる!

当社は企業理念に「常に改善」を掲げています。改善とは、仕事の中で「ここが不便だな」「変えたいな」と思っている部分を変えていくこと。特に、新たな工法や手段を生み出せれば、新規分野での成功に繋がられるでしょう。私達のような特殊な事業を手掛ける会社は、ほかの会社ができないことをやってのけるところに存在価値があると言えます。

私は料理も好きなのですが、根本的に何かを作るのが好き。「ないんやったら作ろう」という精神で取り組んでいます。誰も踏み込んだことのないフィールドへのチャレンジが、会社の未来に続いていくと信じています。

施工事例紹介

～岩出市浄水場編～



工 事 部

くろき かづや

黒木 和弥さん

施工の概要

場所:和歌山県岩出市浄水場

工期:2023年7～11月

メンバー:6人

緩速ろ過池のメンテナンス作業。1池を3週間ほどで終えて、合計5池の作業を進めました。

長年使用している浄水場のろ過池は、定期的なメンテナンスが欠かせません。工事部の黒木さんにお話を聞くと、施工後の外観の変化は少ないものの、ろ過機能を蘇らせるために着実に作業を進めていることが伝わってきました。タケミ・コーポレーションは、浄水場のメンテナンス作業で地域社会を支えています。

施 工 の 手 順

① かき取り作業で溜まった砂の洗浄

毎年行っている岩出浄水場のかき取り作業も、当社の業務の1つです。池の表面に汚れた微砂があると、ろ過層が詰まってしまう、ろ過するスピードが落ちる原因に。そこで、1年に数回、機械を使って砂の表面を3cmかき取っています。かき取った砂はストックヤードに溜めて保管していますが、砂は数年ごとに洗浄が必要です。

今回のメンテナンスでは、溜まった砂の洗浄作業から行いました。洗浄には自社開発のろ材洗浄リサイクル機を使っています。

② 池を清掃し砂を入れていく

次は池の中に入って清掃を行います。そして、砂の高さを計測。池の中は、かき取りによって砂が減っている状態です。先ほど洗浄した砂を規定の高さまで入れていきます。

③ 設備の清掃

高圧洗浄機を使い、壁などを磨きます。防水塗装が施されている場所に高圧洗浄で水をかけると、はがれてしまうことも。設備が破損しないよう、見極めながら気をつけて作業を進めています。

④ サンプルの採取

洗浄した砂のサンプルを採取し、会社に持ち帰ります。そして、分析を専門とする自社研究室が砂の濁度を計測。洗浄前と洗浄後のデータを分析してくれます。1回の洗浄では基準値に満たないこともあるのですが、当社で使用している機械で洗浄した砂は、1回でクリアできることがほとんどです。



施工時に大変だったこと

洗浄で使用した水の排水

砂の洗浄には水を使用するため、大量の排水が出ます。排水はきれいにしてから川に流さなければなりません。そのため、薬品を使いながら水の濁りを抑えて、濁度を基準値以下にしてから排水を行いました。

施工時に心がけたこと

怪我がないように常に気を配る

今回の現場は緩速ろ過池^{かんそく}だったため、フォークリフトやバックホーといった建設機械も多く使用しました。作業は安全が第一。建設機械を使用する際には、怪我がないように気をつけました。

社長からのコメント!!

この現場の大変さ

①施工機会が少ない「洗浄水の排水」を対応

基本的に、施工手順①にある、砂の洗浄のために使用した水の処理は処理場で行うのですが、今回はその場所がなく、タケミで行わなければいけません。過去にも何度か行っていましたが、これが想像以上に大変な作業。毎回苦戦していました。

特に大変なポイントが水量の調整。排水量が多すぎると処理をしきれなくなってしまうので、できるだけ洗浄に使用する水量を少なくしなければなりません。かといって、少なくしすぎると、洗浄作業に時間がかかり工期が伸びてしまいます。**多すぎず少なすぎず、水量を調整しながら施工をする必要がある**のが、難しいポイントです。

対応したことがない人にとっては、困難な業務だと思います。黒木さんは、何度か経験があったので、うまく対応してくれありがたく思います。

②厳しい暑さの中での業務

7月から施工が始まったこともあり、真夏に外で作業をする必要がありました。850㎡ほどある現場は、一面砂で埋め尽くされており、ほぼ砂浜状態。日差しの照り返しもあり、体感温度はかなり暑く感じました……!加えて周りが柵で囲われていたので、なかなか風も通らず、現場の皆さんはかなり大変だったのではないかと思います。

この現場での留意点

後の工程を想定し、事前準備を丁寧に行う

排水のための前準備を、ぬかりなく行ってほしいと黒木さんに伝えました。排水を行うためには、事前に設備を設置する必要があります。それがきちんと設置されていないと、水漏れにつながってしまい、「水を抜く」という追加の工程が発生。その分本来行うべき作業も止まってしまうため、後々の作業を楽にできるように、慎重に設置することに留意しました。

私たちの頑張りを評価いただきました!

お客様からのお喜びの声

お客様からいただくお喜びの声は、私たちにとって何よりの励みになるもの。
今回は営業部の清田さんに、お客様から直接聞いた嬉しい声を教えていただきます!
タケミ・コーポレーションのこういったところが、評価につながったのでしょうか?



営業部
きよ た とし あき
清田 俊章 さん

お客様からいただいたお喜びの声

「いつも細かくフォローしてもらえて
助かっています!」

「ぜひタケミさんをお願いしたい!」

お喜びいただける理由

現場を知り尽くしているから こそその優れた提案力!

タケミ・コーポレーションは、官公庁からの仕事のみを行っている自治体のプロ集団。自治体のことをすべて知り尽くしています。先方の担当者が人事異動などで入れ替わった場合は、新しい担当者の方より当社のほうが仕組みをわかっている、ということも。上下水道局における、ろ過池の作業をどうすればいいのかわかる、予算はどの程度必要なのか。そういった基本的な部分を把握し、素早く提案できる当社は、多くの自治体から頼りにされていると自負しております。

自治体のプロならではの 細かいフォロー!

私たちは浄水場におけるろ材の分析、入れ替えのタイミングなどを判断・分析して提案することができます。そういった細かいフォローまで自社内のできるのが、タケミ・コーポレーションの強みの1つ。自治体の方から、「できれば次の案件もタケミさんをお願いしたい」と言っていただくことができるのも、このフォローあってこそなのではないでしょうか。

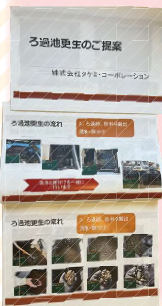
下水にも手を広げ、 仕事の幅を拡大中!

当社は浄水場における、ろ過池の更生工事をメインで行っているのですが、最近は浄化センターや水環境保全センターなど、下水に関わる仕事も増えてきました。2023年には新たに4件のお客様との契約がスタート。今後も積極的に仕事の幅を広げていきたいと思っております。

清田さんの心がけ /

新規顧客の獲得なくして、 会社の成長はない

「常に新しいことに挑戦する」のが私のポリシー。新たな自治体との取り引きも、どんどん増やしていきたいと思っています。そうすることで、会社は今よりもっと成長していくはず。関係性を築くことは大変ですが、そこからは無限の可能性が広がっていきます。今、やり取りをしているお客様にご満足いただくことはもちろん、一期一会の出会いも大切にしていきます。



意気込み

高い技術力を活かし、お客様の問題をともに解決したい

お客様の良きパートナーになるべく、今後も相手のご要望にしっかりと寄り添っていきたくと思っています。相手のお悩みを理解し、解決に向けて積極的に動く。その際にも、タケミ・コーポレーションの持つ強みは大きな力となります。これからも他社にはない技術を活かし、お客様の問題を解決に導けるような営業を心がけてまいります。

